

# 住民による仮置場選定協議と運営についてのワークショップ

## 三重県南伊勢町

- 人口※ 10,526 人
- 自治会加入率 99.9%
- 実施時期 令和元年度～

※令和 6 年 12 月 10 日時点自治体ホームページ掲載情報

## 取組むことになったきっかけ

三重県南伊勢町は、紀伊半島東部沿岸に位置し、南側にリアス海岸を有しています。南海トラフ地震が大きな災害リスクであり、東日本大震災を経て災害に対するそれまでの考え方が大きく変わりました。

町への主要道路は国道 260 号 1 本しかなく、大規模災害時に支援が来にくいことから、自力で災害対応に取り組まなければなりません。これらの状況をふまえ、取組を実施することになりました。

## 取組内容

### 1. 住民による仮置場選定協議

#### 勉強会

災害廃棄物に関する協定を締結している民間業者の社員を講師として、地区長、自主防災会などのリーダー向けに勉強会を実施しました。勉強会では、災害廃棄物の特性についての講義や、各地域の地図を使った地区ごとの仮置場候補地に関する協議を行いました。



勉強会

#### 住民による仮置場選定

勉強会を行った後、地区ごとに住民が仮置場候補地を選定しました。

南伊勢町には 38 の集落（区）があり、全て認可地縁団体として登録されています。これら 38 区長とともに区長会等を定期的実施するとともに行政と区の協働による防災・減災対策、廃棄物処理対策、地区懇談会等の取組みが実施されており、双方向の繋がりにより町の基本姿勢である「オール南伊勢」のまちづくりが進められています。勉強会や仮置場選定には、自治会・町内会、消防団が参加しました。また、災害ボランティアも参加し、住民同士の議論を助けながら全体で理解を深めました。



住民による仮置場選定

## 2. 住民による仮置場運営ワークショップ

まず、町職員が、管理された仮置場と勝手に集積された場所の問題について住民へ説明しました。

その後、住民が選定した仮置場で、災害時にどう対応するか自分事として考えられるよう、以下の問いかけをもとに住民同士で話し合いました。受付や分別レイアウトなど、住民が自分たちで仮置場を運営する方法をテーマに、地図やカードを用いて意見を共有しました。

### 皆さんはどうしますか？

- ・ボランティアの受付はどうしますか？
- ・車の進入路、案内はどうしますか？
- ・誘導・案内はどうしますか？
- ・何かからおろしていきますか？
- ・車のない方の支援はどうしますか？
- ・お風呂はどうしますか？
- ・空き家はどうしますか？



仮置場の自主的な運営について話し合われる様子

### 自治体の声

アンケートなどから、住民が災害廃棄物への関心が高まり、分別の重要性についても理解が深まったことがわかりました。

仮置場を住民同士で管理すること、その注意点などを理解し、また、災害廃棄物について、住民同士、行政とのつながりが醸成されたと考えます。

ある災害で災害支援に行ったところ、避難所の横に災害廃棄物一次仮置場が設置されて、騒音等の課題が確認され、当初の一次仮置場の設定とは異なる状況になっていました。災害廃棄物の仮置場については、平時に用地が確保できるから設定するのではなく、地域の生活の場との境界等を総合的に勘案して設定することが重要であると改めて考えさせられました。

災害の規模や特性により臨機応変に考えていくことが、スピード感を持った生活再建に繋がるものの、仮置場の設定については難しさを感じます。そのため、事前に複数の仮置場候補地を選定しておくことが重要であり、南伊勢町では、現状の候補地だけでなくさらに増やし、また、災害廃棄物処理計画の改定も含め検討を進めていく必要があります。

これまでに、住民参加型の災害廃棄物一次仮置場運営講習を行うことで災害廃棄物処理に係る意識の醸成を行うことができましたが、継続して実施しなければ風化してしまうことが課題と考えています。

今後も住民参加型の災害廃棄物一次仮置場運営講習を継続していく予定です。

